

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092400021		
法人名	株式会社 イクロス		
事業所名(ユニット名)	グループホーム アネックス パル		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町2666		
自己評価作成日	令和2年8月16日	評価結果市町村受理日	令和2年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和2年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々、「利用者様を優先に」を意識し「共にゆったり歩こうよ」の理念のもと、利用者様一人ひとりのペースに合わせた生活が送れるように心掛けています。自分で出来ることは極力、ご自身で行なって頂き、共同生活の中では、お互いが助けたり助けられたりしながら利用者様が笑顔で暮らせるようにお手伝いさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「共にゆったり」の理念のとおり、静かな雰囲気の中でリラックスした入居者の様子を見ると、居心地のよい落ち着いた時間が流れていることを感じられる。昼食時には、入居者と職員が調理場に入り、包丁で食材を刻んだり、味付けを行ったりと、入居者が「自分でできることは自分で行う」自立支援を後方から職員が共に楽しみながら支えている様子がうかがえる。職員関係も風通しのよい良好な関係が保たれており、経験の浅い職員も豊富な職員も皆がケアに関わり見事なチームケアが実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 家族へのお便りを行う時など、職員紹介 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の尊厳を基に、家族様を含め皆様が共に寄り添い暮らしていけるようにと職員で考えた理念です。職員のよく目に留まる位置に理念を掲げ常に気に留め、実践できるようにしています。	「共にゆっくり」という理念を掲げ玄関ホール等目のつくところに提示している。各職員がそれを日々心掛け、ゆっくりとした流れの中で、入居者と関わり落ち着いた雰囲気が漂っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティアや、サポーター養成講座の講師の派遣を行い、認知症カフェの開催も行っています。地域の行事には利用者様と一緒に参加し地域とつながり暮らしていけるように支援しています。	3か月に1度開催する認知症カフェには、近所の方や地域のボランティアが来られ交流を図っている。また、自治会にも入会し、夏祭りや老人会等の地域の行事に参加し、地域とのつながりを図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や支援方法を伝えることができるようサポーター養成講座を開催し、要請があれば地域に講師の派遣を行っています。認知症カフェの委託を町から受け開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し利用者様の近況や、サービス状況を報告し、その時々起こっている問題等を話し合っており、そこで出された意見はサービスの向上に繋げています。	運営会議には入居者の家族代表をはじめ、市町村役場の担当者・地域包括支援センター職員が出席し、サービス状況の報告等を行い、そこで出された意見をサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村には直接出向き、担当者とは連絡を取りあい、事業所の実情を理解して頂いています。相談したり、協力を求められたりし、良好な関係を築いています。	市町村の介護保険担当の職員とは、日ごろから連絡を取り合い、事業所の実状を理解していただき、介護職の人材不足の相談もを行い、協力体制の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は社内、外研修に参加し、身体拘束について学ぶ機会を持っています。社内では、身体拘束ゼロ委員会があり定期的に会議を設け、その内容はすべての職員に伝達し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。	身体拘束ゼロ委員会を3か月に1回開催し、全職員で拘束となる具体的な行為を正しく理解するように学んでいる。玄関等出入り口は自由に行き来ができ、外出の際は職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は社内、外研修に参加し、高齢者虐待について学ぶ機会を持っています。虐待が行われていないか常に注意を払い、疑問があれば職員に話を聞くなどし防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	職員は社内、外研修で権利擁護に関する制度について学ぶ機会を持っています。利用者様に必要が生じた場合には、関係者と話し合いそれらを活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分な話し合いを持ち、不安や疑問があれば、それらが解決できるように説明し、理解納得して頂けるように心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が来所された時に、職員と話しやすい雰囲気づくりを心掛け意見や要望、不満などを言える配慮を行っています。運営推進会議の場や介護相談員を受け入れることで、外部者にも意見、要望、不満などを表すことはできる機会を設けています。	入居者の要望に関しては、言葉やしぐさから思いをくみ取るよう努力している。現在は面会がままならず、希望の家族には携帯電話を使用し、写真や動画で様子を伝える工夫をしている。	コロナで、家族も面会が少なくなっているなか、家族へのお便りを行う時などは、便りの中に職員紹介のスペースを設けるなど、さらなる施設に係る情報発信の工夫に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議や社内会議で、職員の提案や意見を言える場を設けています。部署内でも職員からの意見提案を聞き入れ運営に反映させています。	職員関係は少人数でもあり、風通しの良い関係が保たれており、普段から意見等を行いやすい体制である。生活の中で必要な物品等も職員の希望を反映させ、購入に結びついている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得など個人のスキルアップのため、会社からの補助を出し、希望する研修への参加の手配をするなど、一人ひとりが向上心を持って働ける環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2か月に1度社内研修を開催し出席を義務付けています。一人ひとりの力量に合わせ外部研修にも参加を促し、スキル向上に努めています。職員は研修等を受けることで自己研磨に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで同業者との交流を持つ機会を設け、ネットワークづくりに役立て、勉強会や、相互訪問を行うことで知り得た知識をサービスの質の向上に取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様に寄り添い、利用者様の言葉を傾聴することで、不安や要望等をくみ取れるように努力し、家族様や関係者の方々から情報を得ることで本人の安心を確保できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の安心、安全を踏まえた上で家族様の困りごとや不安などが解決でき、要望等にも耳を傾け、家族様にも安心して頂ける支援を行うことで、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際、本人や家族様、それらを支える関係者から十分な聞き取りを行い収集した情報を元に本人が今一番必要としている支援を見極めるように努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様、一人ひとりのできる事、出来ないことを把握し、暮らしを共にする家族のように、生活の中で協力し合える関係が築けるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設側がすべての支援を行うのではなく、本人と家族様の絆を大切に、家族様の協力を得ながら共に支えていける関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が築き上げてきた馴染みの関係を大切にし、馴染みの人が訪問しやすい環境を心掛け、一人ひとりの馴染みの場所に出かけることで関係性が途切れないように支援に努めています。	入居者の近所の方がホームに訪ねて来てくれたり、職員と買い物に行く際はなじみのスーパーに行くこともある。また、家族と墓参りに行ったり、なじみの美容院に出かけるなど、入居者と地域との関係性が途切れない支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様、一人ひとりの個性を大切にし、お互いの顔が見え、孤立しないように、ソファを配置し、レクリエーションなどを行うことでコミュニケーションを取り、係わり支えあえる支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの場合、利用者様の死亡で退所となるので、本人との関係は途切れてしまっていますが、家族様とは外出先でお会いすることもあり、世間話や馴染みの入居者の事を気にかけて下します。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でコミュニケーションをとり、一人ひとりの意向を把握できるように努めています。意思表示の困難な方には、本人の表情や行動、仕草などから、意向の把握に努めています。	入所時での面談で本人の意向の把握に努め、それまでに関わった家族やケアマネジャーからも情報を得ている。入居者の思いに関しては言葉やしぐさから、汲み取るよう対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族様、支えておられる関係者から生活歴、暮らし方、生活環境をできるだけ詳しく聞き取り、これまでの本人の暮らしが把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、心身状態は変化することを理解し、一緒に過ごす中で変化がないか状態を観察し、その日の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを基に、家族様の思いも聞き入れ、職員で話し合い意見やアイデアを反映し、本人らしい暮らしができるように現状に即した介護計画の作成に努めています。	入居者、家族からの話し合いを基に、また、医師、看護師等からの意見も取り入れながら、職員間で検討している。モニタリングを通して評価も行い、必要に応じて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子は個人記録に記入し、申し送り、個人記録を確認することで情報を共有しています。日々のケアを行う中で気づいたことがあれば職員間で話し合い実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できるように柔軟な支援を心掛けています。日常業務で賄いきれない時には、職員の増員、他部署からの職員の応援で対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加、近隣のスーパーにお買い物に出かけたり、各部署のイベントに参加、ボランティアの訪問を受けたりすることで地域の人々とふれあい、その時々を楽しむことができるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を聞き家族の協力のもと、かかりつけ医を受診しています。協力医がかかりつけ医の利用者様は、月に2回の往診を受けており、地元の医院を受診しておられた方々も、身体の重度化により、医師が月2回、往診して頂けるようになりました。	入居者及び家族の希望を伺い主治医を決めている。多くの方が協力医を選択し月二回の往診を受けている。歯科も訪問診療に来てもらうことが多い。他科受診の場合は連れて行くなどの対応も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度、看護師の訪問を受け、情報や、気づきを伝え適切な指示のもと、受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、安心した治療、適切な看護が受けられるように、出来るだけ詳しく利用者様の情報を伝えています。退院時には病院関係者と情報交換や相談ができる関係を作っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に終末期において、事業所で出来る事を看取りの指針に基づき説明させて頂いています。入所後に重度化しそうな時になれば、家族様よりきちんと終末期のあり方を聞き、必要な時期には、主治医が家族様に説明し、同意を頂いたうえで、主治医、看護師、家族様等の関係者と共にチームで支援ができるように取り組んでいます。	入所時に看取りについての説明もし、終末期には、改めて見取りについての話し合いを持ち、家族、医師、看護師とともにチームとして支援にあたっている。過去に3名の方をこちらで看取った経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	白浜消防署の協力で事故発生時に備えた研修を定期的に行い、職員全員参加を義務付け、応急手当や初期対応の訓練をすることで実践力を身に付けるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い、白浜消防署の指導で行う訓練では、利用者様も参加し一人ひとりに応じた避難方法や、避難通路を確認しています。通報機器を扱って実際に通報訓練を行い、災害に備えています。	2回の防災訓練のうち1回は消防、警報装置の業者も立ち合いのもと、入居者が参加し実施している。夜間想定も実施している。食料等の備蓄体制も整えており、自家発電が行えるよう現在工事を進めている。	具体的な避難経路を図で表し、目につくところに掲示するなどの工夫に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう尊厳の気持ちを持って接するように心がけています。	入居者との対応は基本敬語で行っている。排泄介助ではできるだけ本人のプライバシーが図られるよう、必要などころだけ介助するなど、入居者に配慮したきめ細やかな対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場では、利用者様が思いを訴えられるような雰囲気作りをし、その人に応じた自己決定が出来るように工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の決まった流れの中で、出来る限り一人ひとりのペースに合わせて支援を行い、希望がある場合には、それに沿った支援ができるように工夫しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の服装は自分で準備し着用される方と、準備できない方には好みを聞いて一緒に準備し、着用して頂きます。ヘアスタイルが気になる方には、訪問理容を利用して頂いたり、髭剃りや爪切りなどの身だしなみを整える支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに好みを聞いたり、話の中で出てきたメニューを献立に入れ食事が楽しみの一つになるように心がけています。その人の力に応じた準備や、片付けを任せたり、一緒に行ったりしています。	献立も入居者と共に考え、買い物も交代で入居者と共に行っている。調理が可能な入居者には、包丁で食材を刻む作業を担っていただくなどし、入居者と職員が共に、準備、食事、片付けしている姿が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えたメニュー作りを行い、一人ひとりの食事量、水分量を把握し、その時の状態や力に合わせた支援を行っています。食事での栄養が確保できない方には、補助食品などを利用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じた口腔ケアを行って頂きます。自分で出来る方でも汚れが取れていない場合には、了解を得て支援させて頂きます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人の力に合わせた方法で、出来る限りトイレでの排泄支援を心掛けています。	排泄パターンを職員が把握し、表情や動きを察知することによって、排泄の自立に向けた支援を行っている。失禁や排泄動作がスムーズにできない方にも個人の尊厳が保たれるように、目立たないよう小さなゴミ箱を随所に配置のうえ、用がたされた場合は、職員が即時対応することで、事業所内の清潔が保たれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や、運動への働きかけを行い便秘予防を心掛けています。高齢や認知症の重度化のため排泄できない方は、主治医による排便剤の処方や、訪問看護師により、洗腸等で排便を促して頂きます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務の都合上入浴日を週3回と決めているが、本人の希望で柔軟に対応できる体制を整えており、一人ひとりに添った支援を行っています	週3回入浴実施日を設けており入居者にゆっくり楽しんでいただくようにしている。時間帯は本人の好みを考慮し、希望があれば、夜間でも対応することが出来る。拒否する入居者にも、声掛けするタイミングを見計らうなど工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でゆっくり休んで頂けるように、季節に応じた寝具の調節を行い、室内の温度に気を配り、清潔な寝具で気持ちよく眠って頂けるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬に関しては、別紙にて確認し本人の力に応じた服薬支援を行っており、症状の変化にも注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に応じた役割を持って頂き、その役割を発揮することで張り合いを感じて頂けるよう支援しています。季節に応じた行事や、ドライブ、散歩などで気分転換になるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望で散歩やドライブに出かけています。長時間の外出に関しては、計画を立て家族の協力、職員の増員、他部署からの協力を得ながら、出来る限り希望に添った支援を心掛けています。	以前は週1回は買い物に出かけていた。現在も希望があれば、ドライブを行っている。入居者のパンダを診たいとの声から、家族の協力も得てアドベンチャーワールドに出かけたこともある。夏祭りなどにも積極的に出かけ、花火が上がると戸外に出て楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に家族様と相談し、お金を所持したい方には紛失しても良い位の少額を持って頂くようにしています お小遣いとして事務所に少し預らせて頂き、外出時にはそれを使って頂けるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書こうとする方、電話をしたいと訴える方はおられず、家族から電話があった時に取り次ぎ、お話が出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では混乱をまねいたり、不快な思いをすることが無いように配慮し、居心地良く過ごして頂けるように工夫しています。	共有空間では、以前は畳のみでスペースを作っていたが、立ち上がり動作が困難な入居者のため、畳を使用したイスや、ソファを配置するなど、入居者一人ひとりが心地よく過ごせるよう配慮した対応を行っている。	収納スペースが多く、整理整頓が行き届き清潔ですっきりとした印象であるが、ホームの中で、季節感が感じられるものを配置することで、より素敵な空間になることを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、利用者様が必要とする場所にソファや椅子を置き、一人ひとりが自由に過ごす事ができるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の安全を考えた上で、必要と思われるものを家族様が準備し心地よく過ごすことができるように配置して頂いています	入居者が家族と相談したうえで、入居者が使い慣れたものを部屋に飾るなど、居心地のよい空間づくりを実施している。また、ポータブルトイレの配置場所については、入居者の状況を鑑み職員間で相談し決定するなど一人ひとりにあった配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握したうえで、その人ができる事は、本人に任せるようにしています。安全を重視し出来る限り自立して生活が送れるように工夫しています		